

日機連かわら版

第212号

2023年5月11日(木)



目次

- 日機連・参与紹介…… 一般社団法人 日本工作機械工業会
専務理事 柚原一夫さん
- かわら版・歳事記…… 「行楽シーズン到来」～危ぶまれる天候の異変～
- お知らせ

かわら版バックナンバー

日機連ではホームページを開設しておりますのでご利用下さい。
<http://www.jmf.or.jp/> (禁無断転載)

日機連・参与紹介

一般社団法人

日本工作機械工業会

専務理事

ゆ はら かず お
柚 原 一 夫 さん



◆二つのふるさと、松山と京都

昭和 34 年(1959)、愛媛県松山市生まれです。4 歳で京都に引っ越したため、子供の時の松山の記憶は殆どありませんが、1990 年代以降、両親が松山に戻ったため、私も毎年数回帰省するようになりました。

街の真ん中に松山城のある城山(勝山)が聳え、道後温泉も市内にあります。夏目漱石「坊ちゃん」や司馬遼太郎「坂の上の雲」の舞台になりました。

温暖な気候に恵まれた松山市は全国有数の柑橘産地です。「いよかん」、「紅まどんな」、「せとか」など各種の柑橘類を始め、ソウルフードと言われる鯛めし、鍋焼き饅頭、じゃこ天などが美味しいです。落ち着いた良い街ですので、是非訪ねてみて下さい。

幼稚園から高校卒業までは京都市山科区に住んでいました。山科は京都～大津間にある盆地です。山際を流れる琵琶湖疎水は特に好きな場所でした。

昨年秋、京都で旧友と夫婦で食事をした際、疎水近くの毘沙門堂を 40 年ぶりに訪ねました。紅葉は当時と変わらず美しかったです。

◆文化祭・基調講演に岡田節人教授を招聘

高校での一番の思い出は同級生で生徒会執行部を組織し、自分達の考える理想の文化祭を実行したことです。かなり背伸びをして、発生物理学者・岡田節人(おかだ ときんど)教授を基調講演に呼んだり、黒澤やフェリーニの映画を上映したりしました。

大学では入学時のクラス約 50 人が卒業まで仲が良く、読書会を開いたり、学園祭で演劇や模擬店をやりました。

夏・冬の休みに帰省する際は度々東京から一緒に列車に乗りました。道中よく話もしたし、土地の美味しい物も味わいました。途中下車をして友達の出身地の街に立ち寄ることもありました。

◆海外 46 か国・地域を訪問

現在の日本工作機械工業会に着任する前、経済産業省を中心に、新潟県、関東及び北海道経済産業局、金融庁、エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)、国際協力銀行(JBIC)、商社で仕事をさせていただきました。

主に携わったのは金融、通商・貿易、経済・産業政策、情報産業、地域中小企業、エネルギー等の分野で、その時々課題に取り組みました。

海外は米国・UCLA 経営大学院への留学やシンガポール・APEC 事務局での勤務など通算で 5 年間過ごしました。海外出張もあわせると、これまで 46 か国・地域を訪問しました。

◆歴史的事件に関わる施策に参画

かなり前のことになりますが、平成元年(1989)、米国留学から帰国し、資金協力担当課に着任した日に天安門事件が起きました。それまで検討していた対中円借款を停止せざるを得なくなりました。その後一年近く検討・調整を行い、人道的なプロジェクトや海外からの投資を促進する案件等を中心に実施することになりました。

平成 2 年(1990)にはイラクによるクウェート侵攻を発端とする湾岸戦争が発生し、周辺諸国への資金協力も検討しました。

貿易局(当時)に異動した後、平成 4 年(1992)1 月に父ブッシュ大統領がビッグ 3 首脳等を伴って来日することが決まり、日米貿易摩擦の再燃が懸念されました。政府内外で自動車等の輸出規制再発動を求める声が上がりました。そこで、学識経験者等による検討会を設けて議論し、輸出規制は両国経済に弊害を伴うため、海外投資、輸入・海外調達拡大を進めるべきことが示されました。このような方向で関係者が努力を続けた結果、大統領の来日を何とか無事乗り切ることができました。

◆中学以来のロックファン、クラブトンに感涙

趣味のひとつは音楽です。中学以来のロックファンです。先日、エリック・クラブトンの来日公演を武道館で観て、78 歳でなお力のあるギターとボーカルに感涙しました。高校・大学でオーケストラのメンバーの同級生の影響を受けて以来、クラシックもよく聴いています。

鉄道、車(運転)、飛行機などの乗り物も好きで、旅行も趣味です。

また、日本酒の利き酒とワインのテイスティングを楽しんでいます。新潟県に勤務した30代で日本酒に目覚め、ワインエキスパートの資格を持つ家内と知り合いワインの違いが分かるようになりました。

これからチャレンジしてみたい趣味は絵画。若い頃からの願望です。

◆物事は現場に行き、直接対話から始まる

豊田佐吉翁の「障子を開けてみよ。外は広いぞ」という言葉に惹かれます。トヨタグループの方から伺いました。何か目の前が明るくなり、気分が楽に、少し自由になる感じがします。

私の信条は、何をやるにしても、現場に行って、直接人に会って話をするところから物事は始まるということです。

コロナ禍で行動が制限された間はそれができず、独りよがりになっていないかと不安を感じていました。会員企業を始め関係者の方々とお会いし、よくお話を伺って、課題を見出し、対応を進めたいと思います。



◆日本工作機械工業会の概要

工作機械の役割は、機械部品を必要とする形状・精度に効率よく加工することです。機械や部品類は工作機械によって作られるため、工作機械は全てのものづくりを支えています。

一般社団法人日本工作機械工業会(日工会)は、工作機械工業の総合的な発展を図るとともに、関連工業の繁栄と日本経済の振興に寄与することを目的として、1951年12月1日創立されました。2022年3月に創立70周年記念式典を行い、「日工会創立70周年記念誌」、「工作機械産業ビジョン2030」を発行しました。

会員は日本の切削形工作機械メーカーに、CAD/CAM等のソフトウェア事業者、周辺装置メーカー、3Dプリンタメーカーも加わり、会員数は107社です(2023年4月現在)。

例年、総会1回、理事会5~6回を開催し、日工会の運営方針を決定、進捗・結果を審議頂いています。

8つの委員会(総合企画、技術、経営、市場調査、国際、環境安全、見本市、輸出管理)、1つの

研究会(人材確保・周知)、1つの機構(加工システム研究開発機構)が活発に活動しており、会員各社から各分野の専門家が集まり、業界の共通の課題について審議・調査・研究を行い、その結果を会員各社にフィードバックしています。

専務理事、常務理事に加え、日工会事務局は、総務部、調査企画部、業務国際部、技術部の4部、19人の職員が勤務しています。

◆日工会の主な事業

いくつか行っている事業の例を挙げると、

・工作機械受注統計等の公表

毎月会員の受注状況を集計して発表(速報、確報)。確報発表時に会長、副会長に出席頂き、記者会見を行っています。設備投資の先行指標とされています。

・輸出管理の取組み

当局と意見交換を行うとともに、講習会・研修会を国内外で開催しています。

・日本工作機械見本市(JIMTOF)の開催

2年毎に(株)東京ビッグサイトと共催しています。次回JIMTOF2024は2024年11月5日(火)~10日(日)開催予定です。

・生産技術・知的財産に関する調査研究と標準化の推進

現在は特に、生産システムの自動化を推進するため、設備全体を俯瞰した工場全体の最適化を図る観点から、自動化に必要とされる工作機械の仕様・機能の指針の策定を進めています。

・工作機械LCAの指針策定

工作機械の製造・使用・廃棄段階におけるLCAガイドラインを取りまとめ、会員への周知普及を行っています。

・人材確保・育成

毎年、学生をJIMTOF等展示会に招待し、大学の先生方や会員企業等による講演、座談会等を実施しています。

更なる情報は、以下にアクセスして下さい。

日本工作機械工業会ホームページ

<https://www.jmtba.or.jp>

日工会メールマガジンのご登録

<https://www.jmtba.or.jp/mail-magazine>

かわら版・歳事記

行楽シーズン到来 ～危ぶまれる天候の異変～



江戸庶民最高の娯楽・物見遊山といわれたお伊勢参り
伊勢参宮略図 国立国会図書館デジタルコレクション

今年のゴールデンウィークは新型コロナウイルスによる行動制限もなく、マスク着用の義務も緩和され、これらが追い風となり、旅行大手各社の予測でも需要の増加が見込まれ、コロナ禍以前に近い状態への回復も期待されるなど旅行機運は相当高まってきた。

◆旅行に快適な季節～物見遊山とは～

5月は行楽シーズンである。行楽シーズンは5月に限ったことではないが、気候的にも一年中で10月とともに最も心地よい月といわれている。

多くの人々が快適と感じる季節は、月平均気温で15℃から21℃ぐらいのときという。東京では5月と10月がこの快適温度帯に入っている。ゴールデンウィークはまさにこの快適な気候のもと旅行を大いに楽しむべきである。

旅行を楽しむことに関連して我が国には昔から物見遊山(ものみゆさん)という言葉がある。物見遊山とは一説によれば、禅宗の僧侶が寺での厳しい修行を終え、次の寺へ修行のため移動する際、自由気ままに自然の風物を楽しみながら散策したことに由来するという。

この、「ひと仕事終わってから気晴らしに」という本来の

意味が、一般に広まるうちにいつの間にか肝心の仕事のことはなおざりにされ、いろいろなところを見物して遊び回ることになってしまったという。

◆物見遊山か出張か？

筆者も会社勤めをしていた頃、所属産業団体で話題の最新工場の訪問とメンバーの懇親を兼ねて工場見学会を一夜でよく開催していた。

このときも会合の委員長から、物見遊山に終わらないように計画を立てて実行しようとの発言があったり、社内のメンバーからはどうせ物見遊山だろう、などと言われていた。本音はまさに年に一回の物見遊山に近いもので、見学地の近場の温泉地で懇親会を開き名所旧跡に立ち寄りしたりしたこともあった。

唯、見学会趣旨なども作成し参加者を募るので、その意味では出かける目的がはっきりしているので物見遊山からは辛うじて外れているだろう。

似たようなニュアンスの言葉に「観光」、「視察旅行」などがあるが、これらはある程度の明確な目的、地域の風物・人情や史跡などを見に行くなど、場合によっては事前に予備知識を持って行ったりする。しかし、物見遊山は「気晴らし」、「気ままに」、「ぶらりと」出かけるイメ

ージがより強く、「遊覧」、「漫遊」等に近い気がする。ゴールデンウィークの海外・国内旅行はこの両方を取り混ぜて行かれた人も多いただろう。

◆相次ぐ最近の天候異変

さて、行楽シーズンたけなわであるが、今年の天候は春先から変化が激しい。3月24日に東京では今年初の夏日を記録、これは10年ぶりのことだという。

また、桜の開花も今年は早く、この原稿を書いている4月20日現在で桜の開花前線は北海道を北上中で、道南の一部では既に満開になったところもあり、北海道地方では開花・満開とも平年よりかなり早いという。

既に九州から関東・甲信地方まで葉桜となっており、東北地方でも既に葉桜になっているところもあるという。さらに同じ4月20日は全国的に夏日が続出し、374地点(気温を観測している912地点の約41%)が夏日、熊本県鹿北30.9℃、大分県日田30.6℃、長野県上田30.2℃など6地点が真夏日となった。



両国橋下に落下した雷神と川に引き込まうとする河童
江戸名所道戯尽 両国の夕立
国立国会図書館デジタルコレクション

各地の天候異変は続いている。4月の2～3日には関東各地で雹(ひょう)が降り、群馬、埼玉、千葉などで農作物や建物に被害があったという。

4月20日の夏日続出の直前にも各地で雹や降雪がみられた。列島を覆った強い寒気により、北海道では

4月17日に季節外れの大雪となり、都心では前日の16日に9年ぶりの雹が観測され、埼玉などでも観測された。

一方で4月23日頃からは10年に一度レベルの低温の可能性が発表されるなど最近の気象状況に注目が集まっている。

◆まだ解明されない雷の発生原理

先日、これも4月中旬のことであるが、午前2時近く遠くで微かにバイクのエンジンのような音が聞こえる。この夜中にバイクを誰か飛ばしているのだろうか、と思いつつうつつうつつらしていると、音がだんだん大きくなる。この音は実は遠雷の響きであった。

音は最初の頃のゴーツという音から、バリバリバリーツという音に変わり、時々地響きの様に家が震える。稲光もしているが雨戸を閉めているのでそれほど閃光は感じないが、かなり恐ろしいものである。

雷の発生原理についてはいろいろ研究されているがまだ正確には解明されていないという。現在のところ、上空と地面または上空の雷雲内に電位差が生じた場合の光と音を伴う放電現象と説明されている。



外は土砂降り。雨戸を閉める男性、雷鳴に耳を覆う女性、泣き出す子供
絵本四季花 国立国会図書館デジタルコレクション

◆雷にまつわる伝承など

雷が放電現象と分かるまでは、雷神といって神様として扱ったり、雷獣といって雷の本体は獣だと考えた時代もあった。

概ね全ての人間や動物にとって雷は恐ろしく感じるものであるが、中には雷を好む人物もいたようである。中院通茂(なかのいん みちしげ=1631～1710)という人で、江戸時代前期の公卿・歌人で官位は従一位・内大臣まで務めた人である。

この人は雷鳴とどろく夕立のさなかを、大笠を被って寝殿の屋根に登って、雷を賞翫したという。また、持病の喘息で苦しんでいるときも、雷が鳴り始めると、即座に発作が治まったといわれている。

雷にまつわる民間伝承は数多くあるが、代表的なものは菅原道真に関するものである。太宰府に左遷され死して天神(雷の神)となった道真は都の貴族の間に崇りを及ぼし恐れられた。落雷から逃れるには「桑原(くわばら)、桑原」と唱えると無事であると伝えられるが、これは道真の領地の桑原(京都)には雷が落ちなかったという伝承によるものと言われる。

また、雷さまはへそを取ると伝えられ、子供が夏におなかを出していると、「雷さまにへそを取られるよ」と周囲から言われるが、これは寒冷前線による雷雨の場合、前線通過後急激に気温が下がり、腹を出していると冷えて下痢を起こしやすくなることへの戒めではとされている。

(猫じゃらし)



皇国二十四功 贈正一位菅原道真公
国立国会図書館デジタルコレクション

お知らせ

◆表紙の写真

オオヨシキリ(大葦切)

千葉県印西市 (2022年6月撮影)



撮影 渡邊俊文さん

(元日本精密測定機器工業会 専務理事)

◆ご意見募集

日機連では、今後の活動の参考にさせて頂くために、会員の皆様からのご意見、ご要望をお待ち致しております。

また、「日機連・かわら版」に対するご質問、ご意見や日機連の活動に係る全般的なご意見、ご要望など下記までメールをお送り頂ければ幸いです。

メールアドレス koho@jmf.or.jp